

08

茨城県

JA北つくば 業務効率化について

～労働力の確保が難しくなっていく環境下での
業務の在り方～

北つくば農業協同組合

仁平 高行

にへい たかゆき

JA北つくば 業務効率化について

労働力の確保が難しくなっていく環境下での業務の在り方

JA北つくば 総務部 企画開発課 仁平 高行

目次

- 1. 経営理念・経営方針
- 2. JA北つくばの職員の推移
- 3. 労働人口と労働力率の見通し
- 4. JAに求められる「働き方改革」
- 5. SWOT分析
- **6. 業務効率化の提案**
- **7. AI OCR RPA導入費用及びサポート体制について**
- **8. 業務効率化後の効果**
- 9. まとめ

JA北つくばの経営理念と経営方針

《経営理念》

「JA北つくば」は自己改革を通じ、地域農業の持続的発展と心豊かで健康な生きがいのある地域社会づくりに貢献します。

《経営方針》

- I. 持続可能な農業の実現に向けて取り組みます。
- II. 豊かで暮らしやすい地域社会の実現に向けて取り組みます。
- III. 地域から信頼されるJAを目指して経営基盤強化を図ります。**
- IV. 食料・農業・地域・JAへの理解醸成に向けて取り組みます。

JA北つくばの職員数の推移



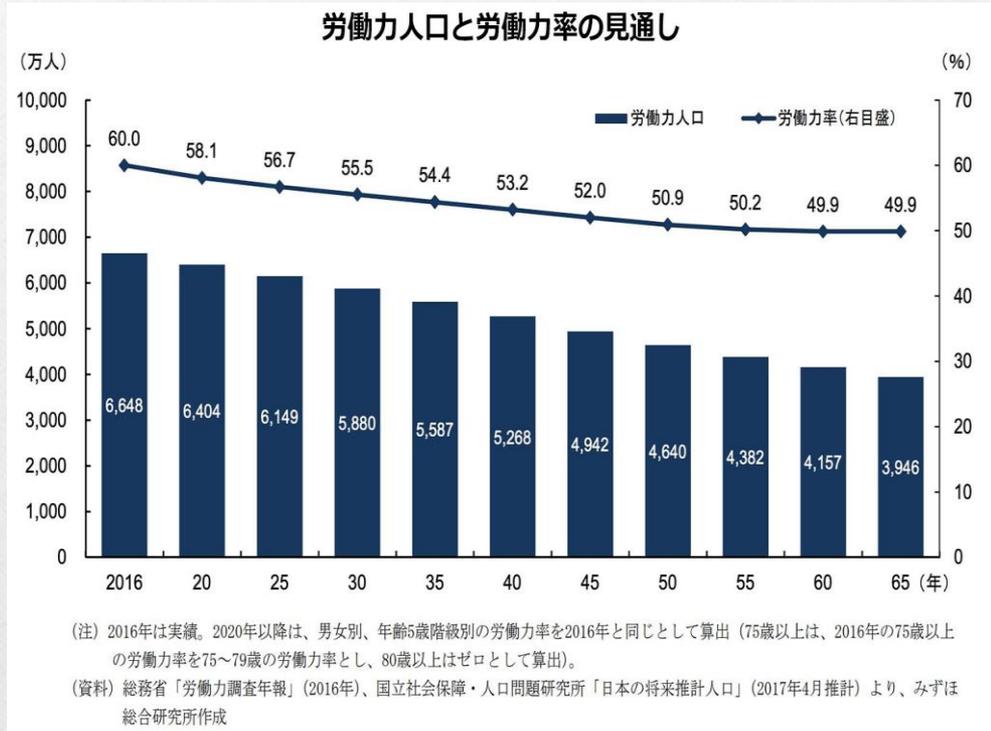
平成27年度から令和3年度の間には全職員数58名、正職員数49名減少
原因：定年退職・自主退職による離職率の増加

労働人口と労働力率の見通し

40年後には少子高齢化の影響で労働人口4割減

- 長期的な見通しでは、40年後の労働人口が現在よりも**4割減少**すると予測されています。
- 2020年には6404万人いる労働人口が、2065年には**3946万人**にまで減少します。

少子高齢化が進み15歳以上の人口減少に歯止めがかからなかった場合、労働人口は急激に減少していきます。



JAに求められる「働き方改革」

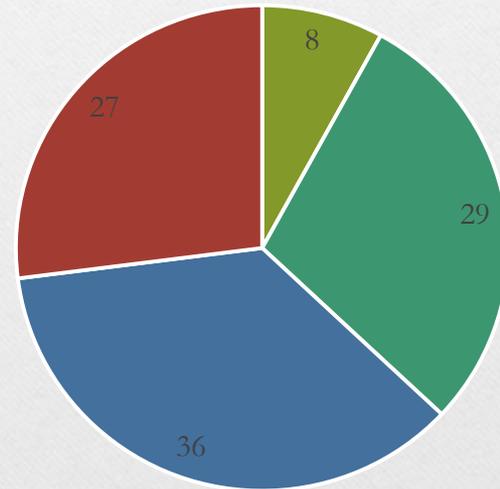
- ・労働人口が減っても生産活動を維持するための生産性向上
今よりも少ない労働力で現在の生産量を維持できる仕組みを作る。

《業務効率の改善についてのアンケート調査》

63%の勤務先で無駄な業務ありと回答があり、企業の慣習による業務遂行、**自動化できそうな手作業**、付き合い・不必要な残業などが理由として回答があった。

業務フローを見直し、効率化が図れる部分の検討！

現在の勤務先の業務に、無駄な業務や作業はありますか？



■まったくない ■あまりない ■たまにある ■非常にある

JAに求められる「働き方改革」

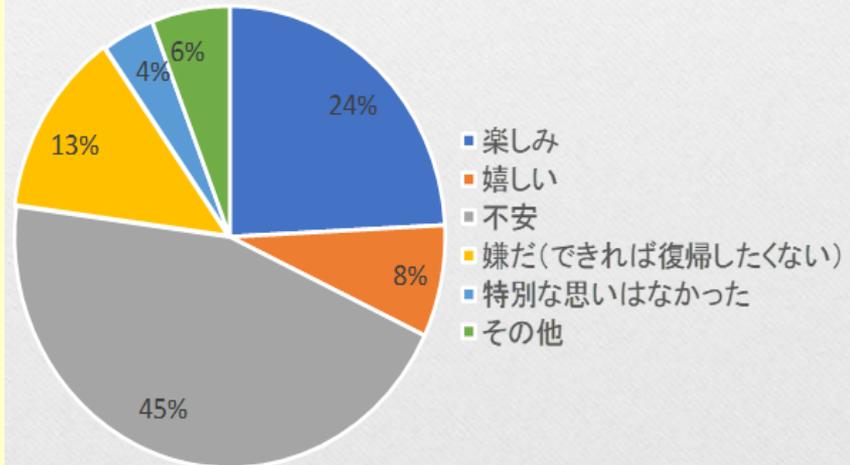
・労働参加率の向上

労働者がそれぞれの状況に応じた就労を行えるように、多様な働き方に対応できる仕組みを作る。

長時間労働を前提とした働き方では、**育児を担う労働者**に関しては残業のある正社員という立場で働くことを選択できなくなる人が増え、労働参加率が低迷してしまいます。

これに対して「**業務効率化**」を推進し、残業しなくても仕事を完了できる体制を整えることで、育児を担う層の労働参加率を**高められます**。

Q.復帰前に一番強かった気持ちはどれですか？



復帰に際して特に大きかった不安・懸念は「時間のやりくりができるかどうか」と「子供のケアができるか/さみしい思いをさせないか」であった。

SWOT分析

| | | |
|---|---|--|
| | O(機会) <ul style="list-style-type: none">・少子高齢化による労働人口の減少・新型コロナウイルス感染拡大によるICT技術の活用・働き方改革の推進 | T(脅威) <ul style="list-style-type: none">・ランサムウェア等の被害が増加・セキュリティ対策への対応 |
| S(強み) <ul style="list-style-type: none">・JAが業務効率化に積極的・会議はペーパーレス(一部)・Web会議機材が整っている・ネットワーク通信環境が整っている・職員に対する業務用パソコンがある | S×O <ul style="list-style-type: none">・ICT技術(Web会議)等を用いた業務の効率化を図る。 | S×T <ul style="list-style-type: none">・セキュリティ対策の強化 |
| W(弱み) <ul style="list-style-type: none">・決算時の紙での作業が多い・申込書等のデータ化する作業が多い・全て手作業なので、ヒューマンエラーが起きやすい・本店での集合会議時の移動時間が多い・支店内での管理職不在時の対応に苦慮・離職率が高い | W×O <ul style="list-style-type: none">・IT技術を用いた、紙ベースでの作業の自動化を図り業務の効率化を図る。・ICT技術(Web会議)等を活用し、支店内で会議に参加 | W×T |

業務効率化により、労働参加率、生産性の向上、人手不足の解消をし、多様な働き方への対応を図り、人材確保に繋げる。

業務効率化提案

AI OCR RPAを活用した業務の効率化

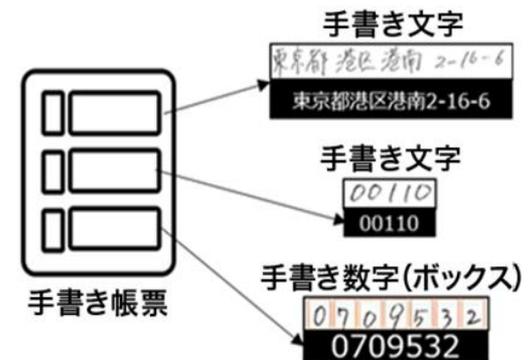
AI OCRとは

AI OCRとはAI技術を活用したOCRの仕組みやサービスで、AIの特徴である機械学習やディープラーニングによって、文字の補正結果を学習し、文字認識率を高められます。

例) 手書きの申込書をスキャンで読み取り、エクセルデータ等へ変換、集計を行う。

手によるデータ入力は、業務時間の長さや疲労の蓄積にとまらぬ、どうしても**打ち間違いや入力漏れなどのミスが起こりやすくなります。**

チェック&修正作業が必要ですが、データ入力からすべて人間が行っていた時と比べて**手間が軽減**され、**ミスの削減**につながるのであれば、十分に導入する意味があります。



業務効率化提案

AI OCR RPAを活用した業務の効率化

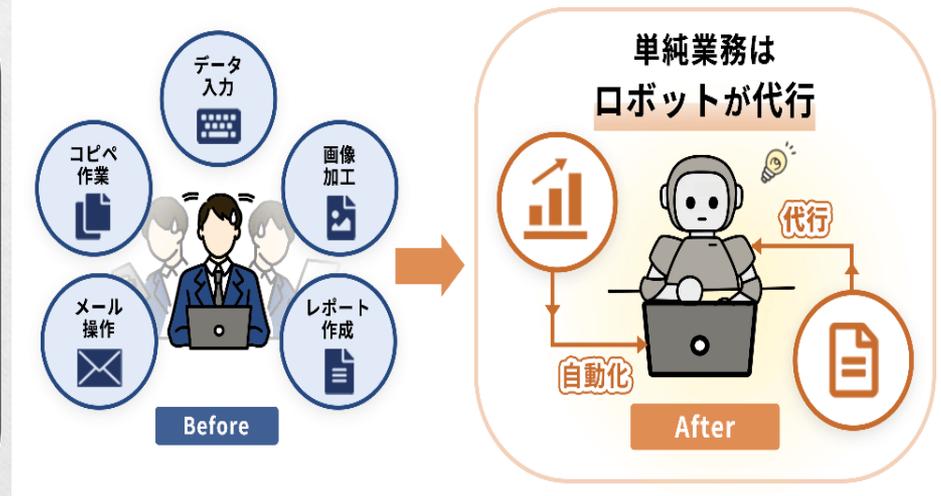
RPAとは

様々なアプリケーションを横断して、業務の効率化・自動化する仕組みです。

高速かつ単純ミスはゼロとなり、24時間稼働する新たな労働力として活用が広がっている。

毎月行うデータ入力、コピー作業、総合情報システムへのデータ入力等、**単純作業をロボット化する事ができる。**

空いた時間を利用して担当者は、**他の業務を行う事ができる。**



業務効率化提案

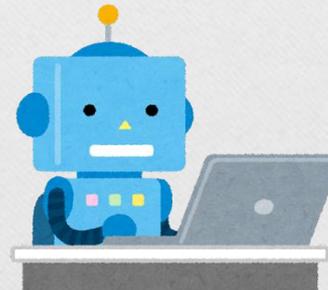
AI OCR RPAを活用した業務の効率化

AI OCR RPAとは

AI-OCRとRPAを連携すると、文字情報の認識からシステムへの入力まで**ワンストップ**で行う業務フローが構築可能。

受け取った紙の帳票類や書類などをスキャナーで読み取りPDFとしてシステムに保存し、その後はAI-OCRがフォーマットに応じて必要な情報をエクセルデータ等デジタルテキスト化します。その後、RPAが経理システムや表計算システムなどに自動的に入力ができます。

例：肥料の申込書をスキャン→AI OCRで読み取りデータ化→RPAで総合情報システムへ入力



人が行う作業は、読み取りたい資料をスキャンし、データ化に間違いがないか確認するだけ。
大幅に作業が、作業が軽減される。

業務効率化提案

紙ベースの作業をAI OCR RPAを活用して効率化

紙ベースでの業務

【営農経済関係】

- ・春肥、秋肥、新茶、その他購買品の予約注文書の取りまとめ・・・年間240時間 →48時間
- ・各作物の作付調査書のデータ化、作物の出荷実績の自動出力・・・年間150時間 →30時間
- ・本店業務の各種集計事務の自動化・・・・・・・・・・・・・・・・年間720時間 →144時間

【信用共済関係】

- ・貸出審査申込書の読み取り、受付票作成・・・・・・・・年間15時間 → 3時間
- ・延滞管理業務確認作業・・・・・・・・年間5時間 → 1時間
- ・資産自己査定 of 債務者概況票の作成・・・・・・・・年間120時間 →24時間
- ・渉外担当者の実績表の作成・・・・・・・・年間120時間 →24時間

【総務関係】

- ・決算業務 書抜書作成等・・・・・・・・年間10時間 → 2時間
- ・ポイントカード流し込み作業・・・・・・・・年間36時間 → 7時間

今後も、ロボット化できる紙ベースの業務を、システム補佐担当者会議にて検討・開発を行う。



1, 416時間→283時間に短縮が見込まれる。

年間1, 133時間効率化

更に！ヒューマンエラーが無くなるので、間違いを修正する時間も短縮！

AI OCR RPA導入費用及びサポート体制について

システム導入費用

| システム名 | サービス基本料金 (年額) |
|--------|------------------|
| AI OCR | 360,000円 |
| RPA | 908,000円 |
| 合計 | 1,268,000円 |

サポート体制

| 目的 | サポート種類 |
|---------|-----------------|
| 人づくり・教育 | AI OCR RPA技術研修会 |
| 人づくり・教育 | 技術支援・ヘルプデスク |
| ルールづくり | コンサルティングサービス |

平均正社員時給1,900円×1,133時間=2,152,700円
AI OCR RPA 導入費用 1,268,000円
884,700円コストカット!

業務効率化後の効果

効果1 生産性の向上

効果2 労働参加率が高くなる

効果3 ワークライフバランスの改善

効果4 多様な働き方への対応が容易になる

効果5 質の良い仕事への転換

効果6 コスト削減(人件費・光熱費等)

まとめ

働き方改革の本質的な目的である、今後予測される**労働人口減少に備える為の業務効率化**が可能になる。

また、ワークライフバランス改善により、育児・就労の両立支援による**少子化対策**への貢献ができ、職員の**定着率**が上がり、JAイメージの向上による**優秀な人材の確保**に繋がると考えます。